

でした。コロナが流行る 1,2 年前、通所施設でせき込んでいると、職員がマスクを、私の口につけてくれました。マスク慣れしていなかったので、息苦しさを感じました。それにマスクをしていると、言葉も聞きづらいことはありませんか？

顔も半分しか見えないし、なんとなくコミュニケーションの取りづらさを感じているのは私だけでしょうか？中にはマスクを外して顔を全部出すのが恥ずかしいという人も居ました。しかし人間同士、喜怒哀楽は素顔が見えるから感じるものだと思いますか？そんな思いから私は、日常から早く「コロナ」が無くなる事を祈っています。



この頃近所を歩いていると、「ホテル」が多く目につくようになりました。大きい建物のホテルや一般家屋のような作りのホテル。外装も大事ですが、飲食店やホテルに欠かせないのは、そう、サービスですよ。私たち障がい者はいろいろとサービスを受けることが多いですね。通所先や、家庭での生活を支えてくれるホームヘルパー。あるとあらゆるサービスがあるから、生活が、成り立っていけるのです。

そもそもサービスというのは、大正時代末期日本の自動車産業の社長が、アメリカに視察に行き、アメリカの自動車会社のサービスステーションサービスが出来ていることを知り、日本でも広めようしましたが、上手くいきませんでした。その後、日本に海外の自動車会社が日本に工場を置き操業を開始したことで日本にも「サービス」が使われたそうです。人と人との助け合いの精神が、お客様に対してのサービスであり、そのサービスを受ける私たちも、感謝する気持ちを忘れたくないですね。



私の新聞にご賛同、応援して頂ける方はご寄付金 1,000 円(年間1回程度)を長澤まで宜しくお願い致します。

また、特定非営利活動法人自立生活センターたいとうの活動にご賛同いただける方、賛助会員としてご支援をお願いしております。

正会員	年会費	5,000円
賛助会員	年会費 個人会員一口	3,000円
団体会員一口		10,000円